

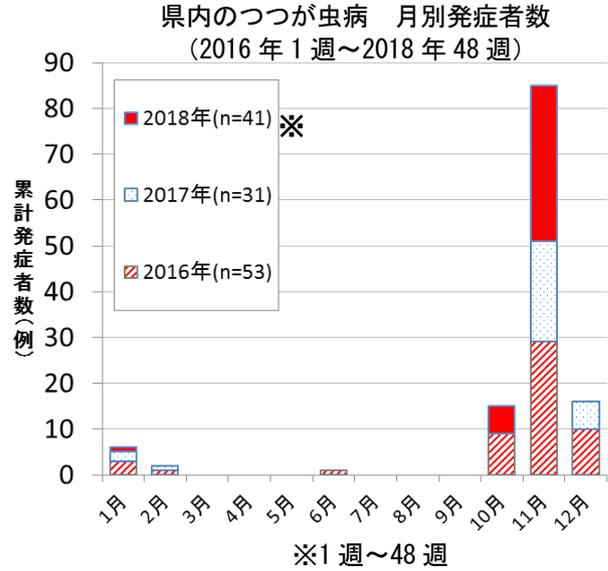
宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第48週の発生動向

トピックス

つつが虫病（全数報告の感染症）の届出が都城保健所から5例、小林保健所から2例、宮崎市・日南・高鍋保健所から各1例あった。県内での報告は今年累計41例となった。過去3年間に報告された患者の年齢別割合は60歳以上が約8割を占め、発生時期は11月をピークとして冬期に多い。



全数報告の感染症（48週までに新たに届出のあったもの）

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核3例。
- 3類感染症：報告なし。4類感染症：つつが虫病10例。
- 5類感染症：ウイルス性肝炎1例、急性弛緩性麻痺3例、百日咳2例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	60歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	肺結核	咳、痰
		都城	30歳代	女	無症状病原体保有者	—
5類	ウイルス性肝炎	宮崎市	40歳代	男	B型	褐色尿、肝機能異常、黄疸
	急性弛緩性麻痺	宮崎市	0~4歳	男	病原体不明	弛緩性麻痺、頭痛、発熱
			0~4歳	男	病原体不明	弛緩性麻痺、深部腱反射低下、筋萎縮、発熱、髄液細胞数増加、嘔吐、脊髄画像所見異常
			10歳代	男	病原体不明	弛緩性麻痺、便秘、意識障害
	百日咳	都城	10歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み、白血球数増多
日向		10歳代	男	—	持続する咳	

	疾患名	報告保健所	報告数	年齢群				症状
				40歳代	60歳代	80歳代	90歳代	
4類	つつが虫病	宮崎市	1例		1			頭痛、発熱、刺し口、発疹、リンパ節腫脹、結膜充血
		都城	5例	1	3		1	
		日南	1例			1		
		小林	2例		2			
		高鍋	1例			1		

□ 定点把握の対象となる5類感染症

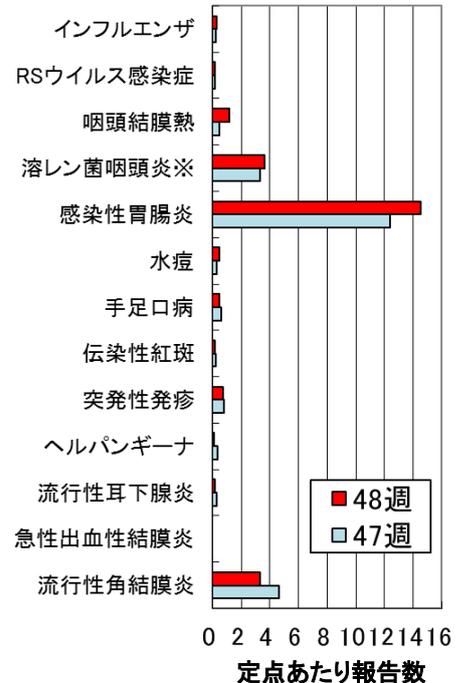
・定点医療機関からの報告総数は798人(定点当たり25.3)で、前週比106%と増加した。なお、前週に比べ増加した疾患は咽頭結膜熱と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと流行性耳下腺炎である。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

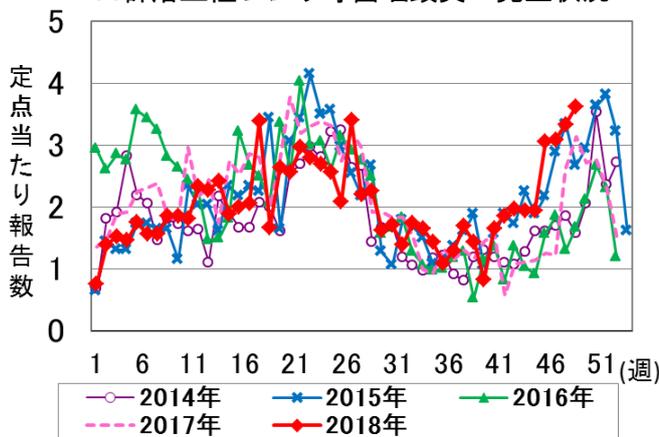
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

報告数は127人(3.6)で、前週比109%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*(2.2)の約1.7倍である。延岡(11.5)保健所からの報告が多く、年齢群別では4~9歳が全体の約7割を占めている。

《前週との比較》



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



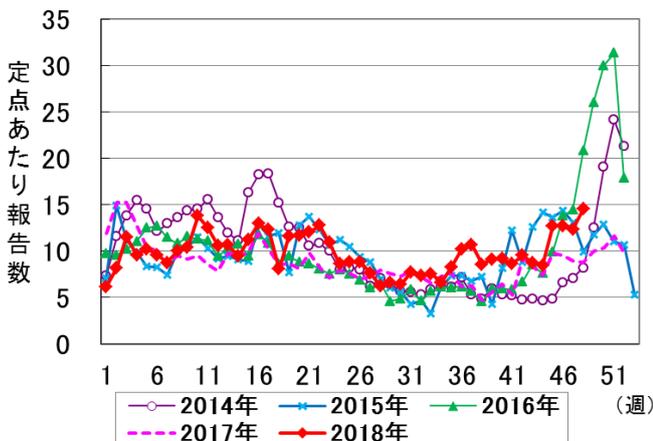
※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【感染性胃腸炎】

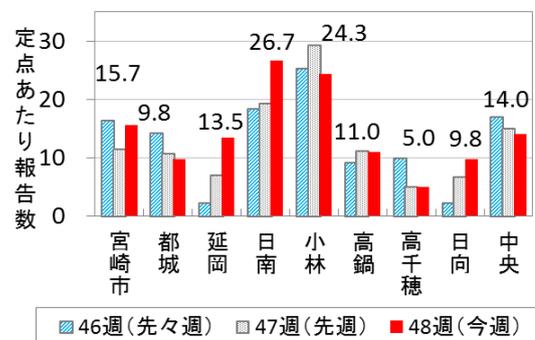
報告数は509人(14.5)で、前週比118%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*(14.0)とほぼ同率である。日南(26.7)、小林(24.3)保健所からの報告が多く、年齢群別では1~4歳が全体の5割を占めている。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

感染性胃腸炎 発生状況



感染性胃腸炎 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★
報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	咽頭熱結膜炎(6.5),A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(11.5),水痘(2.5)
日南	感染性胃腸炎(26.7),水痘(1.0)
小林	感染性胃腸炎(24.3)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	手足口病(5.0)

* 流行警報レベル開始基準値*

・咽頭結膜熱(3.0)
・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)

・感染性胃腸炎(20.0)

* 流行注意報レベル基準値*

・水痘(1.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成30年12月3日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
EHEC(O157:H7 VT2)	5～9歳	女	2018.11.05	下痢、血便	便	2018.11.21
EHEC(O91:HUT VT1)	40歳代	女	2018.11.01	無症状	便	2018.11.19
EAggEC(O111:H21)	10歳代	女	2018.11.19		便	2018.11.30
Salmonella Stanley (O4:d:1,2)	0～4歳	男	2018.11.24		便	2018.11.29

○5～9歳の女児と40代後半の女性から腸管出血性大腸菌（EHEC）が分離された。EHECは夏季に多くみられ、当所では8月に10例分離されている。なお、EHECは例年、冬季にも分離・検出されており、EHECによる感染症は少ない菌数でも発症することから、冬季も夏季同様、食品の衛生管理や手洗いのさらなる励行が求められる。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
インフルエンザウイルスB（ビクトリア系統）	20歳代	男	2018.11.02	インフルエンザB型、38.1℃、咽頭炎、咽頭痛	鼻汁	2018.11.22
単純ヘルペスウイルス1型	50歳代	女	2018.10.15	風疹疑い、39.0℃、上気道炎（咽頭痛）	咽頭ぬぐい液	2018.11.27
コクサッキーウイルスA6型	10歳代	女	2018.10.16	急性上気道炎、38.6℃、上気道炎（咽頭炎）	咽頭ぬぐい液 尿 血液	2018.11.27

○インフルエンザと診断された成人1名からインフルエンザウイルスB（ビクトリア系統）が分離された。全国のインフルエンザウイルス検出状況は12月3日現在でAH1pdm09が147件と最も多く、次いでAH3が51件、B（山形系統）が4件、B（ビクトリア系統）が1件となっている。本県では全国と同様にインフルエンザの大きな流行は今のところみられていないが、手洗いやワクチン接種等の予防策をとることが重要である。

🇯🇵 全国 2018 年第 47 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 47 週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	269 例			
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	23 例	
4類感染症	E 型肝炎	8 例	A 型肝炎	6 例	エキノコックス症 1 例
	つつが虫病	48 例	デング熱	3 例	日本紅斑熱 4 例
	レジオネラ症	30 例			
5類感染症	アメーバ赤痢	9 例	ウイルス性肝炎	6 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 26 例
	急性弛緩性麻痺	5 例	急性脳炎	3 例	クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例	後天性免疫不全症候群	13 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	36 例	水痘（入院例）	5 例	梅毒 77 例
	播種性クリプトコックス症	3 例	破傷風	5 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	百日咳	277 例	風しん	113 例	麻しん 8 例
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例			

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 99% とほぼ横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと伝染性紅斑で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 7,581 人(2.4)で前週比 99% とほぼ横ばいであったが、例年同時期の定点当たり平均値* (2.3) の約 1.1 倍である。鳥取県(4.4)、福岡県(4.0)からの報告が多く、年齢群別では 4~7 歳が全体の約 5 割を占めている。

伝染性紅斑の報告数は 2,070 人(0.7)で前週比 107% と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値* (0.2) の 2.7 倍である。宮城県(4.6)、新潟県(1.8)からの報告が多く、年齢群別では 3~7 歳が全体の約 7 割を占めている

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2018年 第48週(11月26日～12月02日)

疾病名		第47週	第48週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	15	18	1	1	3	1	8				4
	定点あたり	0.26	0.31	0.07	0.10	0.43	0.20	1.60	0.00	0.00	0.00	2.00
RSウイルス 感染症	報告数	5	7		5						2	
	定点あたり	0.14	0.20	0.00	0.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	16	41	3	4	26	2		6			
	定点あたり	0.46	1.17	0.33	0.67	6.50	0.67	0.00	1.50	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	117	127	28	22	46	4	8	12	1	5	1
	定点あたり	3.34	3.63	3.11	3.67	11.50	1.33	2.67	3.00	1.00	1.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	433	509	141	59	54	80	73	44	5	39	14
	定点あたり	12.37	14.54	15.67	9.83	13.50	26.67	24.33	11.00	5.00	9.75	14.00
水痘	報告数	11	18		2	10	3				3	
	定点あたり	0.31	0.51	0.00	0.33	2.50	1.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.00
手足口病	報告数	22	17	8		3			1			5
	定点あたり	0.63	0.49	0.89	0.00	0.75	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	5.00
伝染性紅斑	報告数	8	5	4	1							
	定点あたり	0.23	0.14	0.44	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	27	26	5	4	8	3	1	3		2	
	定点あたり	0.77	0.74	0.56	0.67	2.00	1.00	0.33	0.75	0.00	0.50	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	12	4	1		3						
	定点あたり	0.34	0.11	0.11	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	11	6	1	1		3					1
	定点あたり	0.31	0.17	0.11	0.17	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
急性出血性結膜 炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	28	20	16	2	2						
	定点あたり	4.67	3.33	5.33	1.00	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:35(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週～48週)

2類感染症	結核	152例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	38例				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	22例	重症熱性血小板減少症候群	11例
	つつが虫病	41例(10)	デング熱	1例	日本紅斑熱	18例
	レジオネラ症	7例	レプトスピラ症	2例		
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	6例(1)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	14例
	急性弛緩性麻痺	4例(3)	急性脳炎	6例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	7例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例
	侵襲性肺炎球菌感染症	22例	水痘(入院例)	1例	梅毒	6例
	播種性クリプトコックス症	5例	破傷風	4例	百日咳	281例(2)
	風しん	3例				

()内は今週届出分、再掲